

TOPPAN とデータ X、中堅企業の デジタルマーケティング支援領域で協業を開始

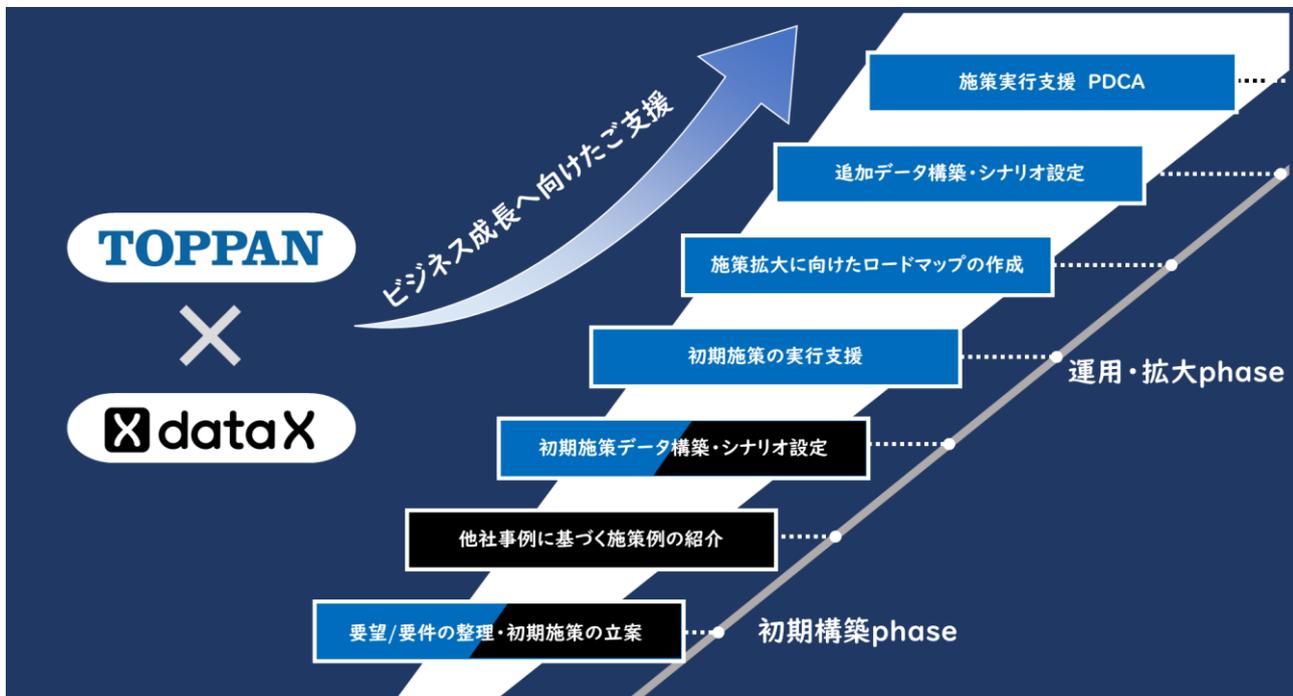
TOPPAN のデジタルマーケティング実行支援力と
データ X が提供する「b→dash」の機能性を融合した伴走支援体制の構築

TOPPAN ホールディングスのグループ会社である TOPPAN 株式会社(本社:東京都文京区、代表取締役社長:齊藤 昌典、以下 TOPPAN)と、株式会社データ X(本社:東京都新宿区、代表取締役社長:安部 泰洋、以下 データ X)は、中堅企業をターゲットとしたデジタルマーケティング支援領域で連携。両社はデータ基盤構築・運用およびセールス活動で 2024 年 4 月下旬より本格的に協業を開始します。

TOPPAN は、デジタルマーケティングの様々な分野で、戦略策定から実行支援まで幅広くサービスを提供し、顧客企業のマーケティング DX を支援しています。

また、データ X が提供するデータマーケティングクラウドシステム「b→dash(ビーダッシュ)」は、データマーケティングに必要な機能を All in one で備えていることから短期間での導入が可能で、幅広い業界で採用が拡大しています。

本協業では、TOPPAN の伴走支援サービスと、一気通貫でマーケティング施策が実施可能なデータ X の「b→dash」を融合し、マーケティングテクノロジーの導入・運用に課題を持つ企業をターゲットとしたデジタルマーケティング支援拡大を目指していきます。



■ 本協業の背景

近年、企業のマーケティング活動において、データ活用による顧客一人ひとりの属性や、行動に応じたコミュニケーションの重要性が高まっています。そうした中で、あらゆる顧客接点のデータを統合するカスタマーデータプラットフォーム(CDP)や、カスタマージャーニーに基づいて顧客とのコミュニケーションを自動化するマーケティングオートメーション(MA)をはじめとしたマーケティングテクノロジーが注目されて

います。しかしながら、多くの中堅企業においては、こういったテクノロジーの導入および継続的な PDCA 推進に関して、リソース・スキルといった体制面での課題を抱えています。

TOPPAN では、400 社以上の実績を持つ CRM 運用力にマーケティングテクノロジーを融合し、デジタルマーケティング領域において「パフォーマンスマーケティングサービス」「カスタマーエンゲージメントサービス」「データテクノロジー&プラットフォームサービス」の 3 つのサービスを通して“個客中心”のマーケティング活動を、伴走型で支援する実行力を有しています。

一方、データ X はノーコードでプログラミング等の必要がなく「データの取り込み・加工・統合・抽出・活用」を実現することをコンセプトに、データマーケティングに必要な機能を All in one で備えた「b→dash」を開発・提供。導入社数が 600 社を超え、幅広い業界での導入ノウハウを有しています。

今回 TOPPAN とデータ X が協業を開始し、マーケティングテクノロジーの導入・運用に課題を持つ中堅企業をターゲットとして、「b→dash」の持つユーティリティ性を最大限活用しながらも、顧客企業のビジネスを成長させるための伴走支援型サービスを展開していきます。

■ 本協業の概要

TOPPAN のデジタルマーケティング実行支援力とデータ X が提供する「b→dash」の機能性を融合し、デジタルマーケティングのエントリーからグロスまでをサポートする、伴走型支援体制を構築します。具体的な支援の内容は、データビジネス戦略立案、データアセスメント、データ分析、デジタルメディアプランニング、UI/UX 設計、コンテンツ開発、デザイン制作、PDCA 型の業務運用など、データを基点とした施策実行に関する総合的な業務を想定しています。

また TOPPAN が提供する AI ソリューション「KAIDEL[®]」※と連携し、「b→dash」に蓄積されたデータを活用した施策成果の最大化支援も行うことが可能です。

■ 今後の目標

TOPPAN とデータ X は今後、両社の知見やサービス等を融合し、2026 年 3 月までに 20 社へのサービス提供を目指します。

※AI ソリューション「KAIDEL[®]」

<https://solution.toppan.co.jp/bx/service/kaidel.html>

* 本ニュースリリースに記載された商品・サービス名は各社の商標または登録商標です。

* 本ニュースリリースに記載された内容は発表日現在のものです。その後予告なしに変更されることがあります。

以 上